

京都学園大学京都太秦キャンパス 事業計画概要 ～京都市山ノ内浄水場跡地活用事業～

1 事業方針

(1) 事業方針

建学の精神と目的を継承し実践する場を、学園発祥の地である京都市内に設置し、京都・亀岡の両キャンパスそれぞれの特徴を活かした教学展開を進め、さらなる教育研究内容の充実を図り、大学の社会的使命を果たしていく。また、大学の学術研究機能と地域の共存によるまちづくりを進め、京都市の政策に貢献する。

(2) 大学の教育目的

建学の精神「日本人らしい日本人の育成」は、グローバル化の時代状況では、日本文化を重んじ互恵平等の精神に基づき国際社会で活躍する人材の育成を意味し、「世界的視野で主体的に考え行動する人材の育成」を教育目的にしている。

(3) 事業の目的

新たに2学部を設置し、京都の地域社会を教材とし、世界的視野に立って知的探求を行い、社会が求める人材の育成に取り組む学部として発展を目指す。亀岡キャンパス及び地域との連携の中で、教育研究の充実を図り、両キャンパスを発展させていく。

2 教育研究計画

(1) 教育研究のコンセプト

ア 「教育・ビジネス・文化」を中心とした教育の実践がコンセプト

- 現代ビジネス学部：「ビジネスを支える人材の育成」の基本精神に基づき、「実務実践力」を備えた人材を育成
- 人文学部：京都で育み育てられた伝統的な日本文化への理解を深め、現代的な意味を問い直し、異文化交流を通じて国際的に情報発信する取組を展開
- イ 地域への愛着を持ち、地域に貢献できる人材の育成
- ウ 幅広い職業人養成，人間力・総合力の育成を目標とした教育改革の推進
- エ 大学の国際化と国際感覚を持った人材の育成のため，留学生の受入れ拡大，生活支援の充実，交流促進を図る。

(2) ダブルキャンパスによる相乗効果

京都・亀岡の両キャンパスを地域特性に合わせて教育組織を再編し、教育研究内容を充実して、行政や企業との連携を深め、成果を享受できる体制を構築する。

(3) 京都太秦キャンパスにおける設置学部及び学生数等の推移

ア 第1期計画＜平成27年度～30年度＞

- 2学部5学科を平成27年度に開設
 - ・ 現代ビジネス学部（経済学科，経営学科，法学科）
 - ・ 人文学部（社会学科，日本文化学科）
- 学生・教職員数2,000名（30年度）

イ 第2期計画<平成31年度～>

- 第1期設置学部の実績、大学院の設置を構想。また、国際競争力のある人材、都市問題の解決にあたる人材の育成のため、新たな学部・学科を構想し、教育・研究体制の高度化を図る。
- 学生・教職員数3,000名(34年度)

3 地域・社会への貢献

(1) 地域との連携

- 亀岡キャンパスで積み重ねてきた実績を活かし、京都太秦キャンパス周辺地域、右京区、京都市を新たな連携の場として、活動を展開する。
- 右京区大学地域連携に関する協定に参画し、周辺地域を巻き込んだ「知の拠点」を目指す。

(2) 都市防災施設としての機能(市民防災・観光客防災)

- 大規模市街地火災が発生した場合、伽藍配置の校舎が防火壁として機能し、センタープラザに集まった市民を守る施設設計。
- 防災備蓄品を保管する倉庫を備え、防災に関する催しを定期的で開催する。

(3) にぎわいゾーンの形成

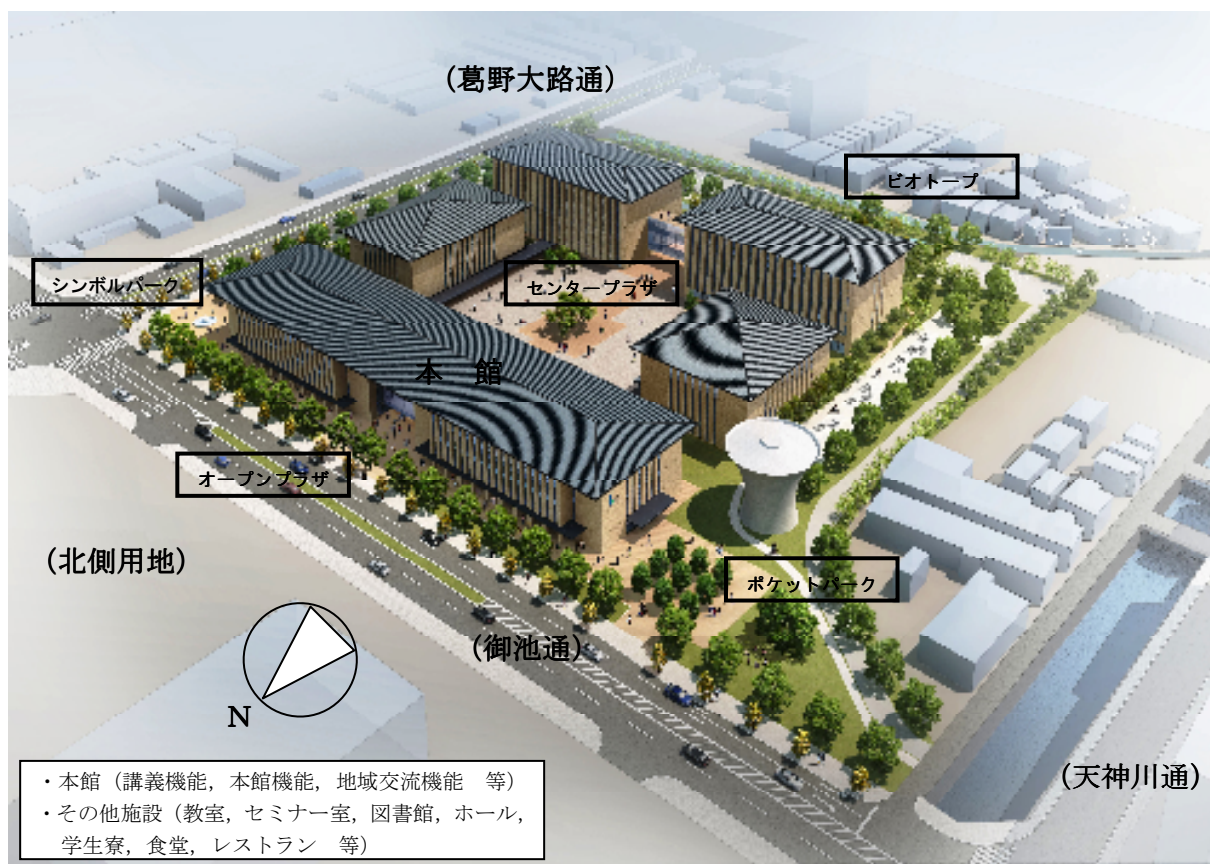
- 御池通と葛野大路通沿いを「にぎわいゾーン」と位置付ける。施設を道路から充分に後退させて、歩道と一体となった安全快適で開かれた空間を確保し、地域交流センター(仮称)、ブックセンター(仮称)、カフェ、大学ホール等の配置を構想し、学生や教職員に加え、地域住民や近隣事業所の人々に開かれた、にぎわいのある環境を創出する。
- 公開講座、産学公や地域との連携など、「広域から人を集める」仕組みづくりも行い、一層のにぎわい創出を目指す。

4 施設構想

「人と人、人と緑のコミュニティキャンパス」をコンセプトに、学生と社会・周辺地域を結ぶ交流ゾーンを設け、学生の活気や豊かな創造力を生む開放型キャンパスを目指す。また、自然と緑が豊富な広々とした空間の中に、学生の快適な学びの場を創出するとともに、地域にも広く開かれたキャンパスとするよう、5つの方針の下で施設を整備

- (1) オープンなキャンパスと充実した交流空間により、学生の活気や創造力を創出
- (2) エコ・バイオ技術を活かした緑豊かな環境を整備し、学生の快適な学びの場を創出
- (3) 平安時代の街区と水文化を継承するキャンパスプラン
- (4) 質の高い新しいデザインにより、都市景観を向上する周辺と調和した親しみやすい街並みを創出
- (5) 安全かつ機能的な人と建物・人と車のより良い関係の実現

<キャンパス完成時の施設イメージ>



- 御池通と葛野大路通沿いに「にぎわいゾーン」を配置
- 御池通沿いに大学の主たる機能を集約した本館，オープンプラザ，シンボルパーク等による「交流ゾーン」を配置
- 地域住民も利用可能なセンタープラザを囲む「キャンパスゾーン」を配置
- 西高瀬川が流れていた部分にバイオ環境学部の技術を活かした「ビオトープ」を配置
- 緑豊かで学生と市民が憩える潤いのある空間を創出し，知性と活気に溢れ，親しみやすく開放された施設づくり
- 施設整備のコンセプトである「人と人、人と緑のコミュニティキャンパス」にふさわしく、京都のやまなみを背景とした周辺地域との調和を図るとともに、風格のある施設の整備によって、地域の新しい景観を創出
- キャンパス利用者の安全性を考慮し，快適な歩行者空間を整備，十分な駐輪場の確保